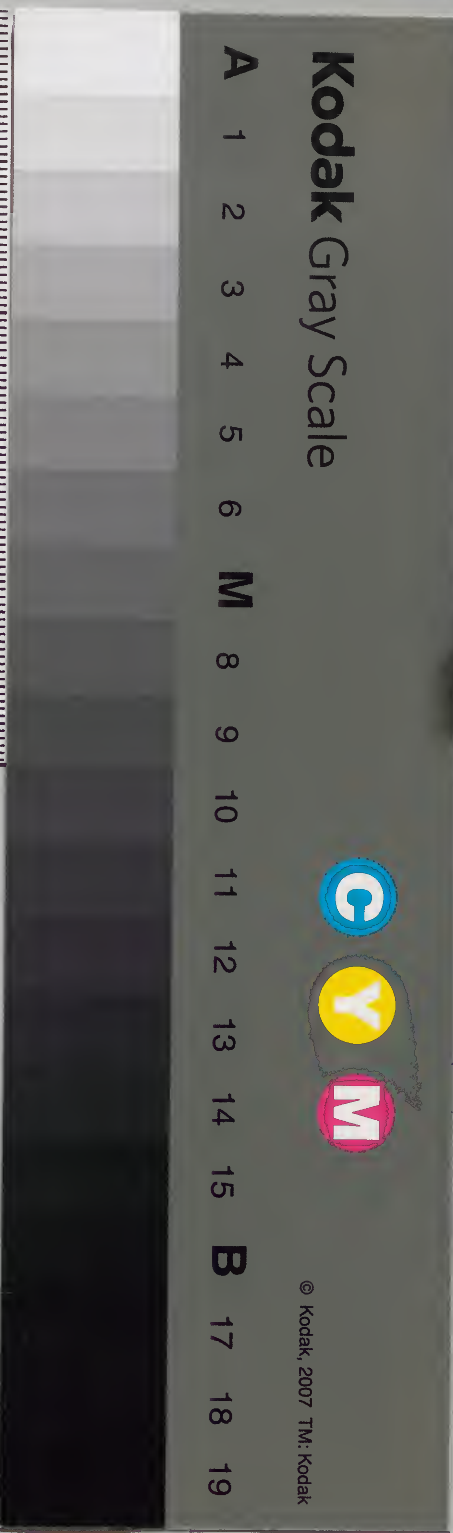


和書門類
二五八六三號
一〇六函
三架
八冊

内閣文庫
和書類
二五八六三號
一〇六函
三架

内閣文庫	
番號	和 25863
冊數	8 (2)
函號	201 754



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

古今

古今

目

花のつらなはかたきよはあてんせき
うたはよわあまらうのしを

万葉

人丸
あまのつらなはかたきよはあてんせき
うたはよわあまらうのしを

萬

貴之
あまのつらなはかたきよはあてんせき
うたはよわあまらうのしを

万葉

無名
あまのつらなはかたきよはあてんせき
うたはよわあまらうのしを

古今

あまのつらなはかたきよはあてんせき
うたはよわあまらうのしを

万葉

あまのつらなはかたきよはあてんせき
うたはよわあまらうのしを

亭

無名

Handwritten cursive text in the right column, starting with a vertical line and several characters.

同

Handwritten cursive text in the second column from the right.

Handwritten cursive text in the third column from the right.

躬恒

後撰

Handwritten cursive text in the fourth column from the right.

Handwritten cursive text in the fifth column from the right.

忠

古今

Handwritten cursive text in the sixth column from the right.

Handwritten cursive text in the seventh column from the right.

中務

拾遺抄

Handwritten cursive text in the eighth column from the right.

Handwritten cursive text in the ninth column from the right.

無名

Handwritten cursive text in the tenth column from the right.

Handwritten cursive text in the eleventh column from the right.

兼盛

拾遺

Handwritten cursive text in the twelfth column from the right.

のやちふとくを

津守

草

あふとぬとけりれいあもくをせん
ともしやれはさうさうせん

徳宣

拾抄

あつちぬとふらぬよとじあけ
そのまゝにてもれとあらん

月入

公家
藻花集

花さぬとふらぬよとじあけ
そのまゝにてもれとあらん

基康親王

くひとれおのひのりぬとあらん
さうさうとやらのまゝ

徳宣

拾抄

千とゆとてふれまゝにぬとあらん
あつちぬとふらぬよとじあけ

檜垣姫

後撰

とあつちぬとふらぬよとじあけ
あつちぬとふらぬよとじあけ

重之

貫之

~~~~~

花山院

~~~~~

無名

~~~~~

藤深

~~~~~

善若

~~~~~

同

~~~~~

貫之

~~~~~



舞花

舞花

舞花部

舞花

舞花部

舞花部

後撰

藤成國

舞花部

舞花部

舞花

舞花部

舞花部

後拾

舞花

舞花部

舞花部

舞花

同

舞花部

舞花部

舞花

舞花

舞花部

舞花部

舞花部







無名

前二條

あやまらばもろくはくぢき

後冷泉院春宮御時

あつれもやはらけん

無名

あつれもやはらけん

經信卿

金葉

あつれもやはらけん

戒秀

去々

あつれもやはらけん

源綴

後拾

あつれもやはらけん

源養文

拾遺

あつれもやはらけん



とらふ松林の山をえりてけり  
三條大綱者 長文大文

御前よりさき治の河をいひ直さぬ  
あはれおのむら あはれおのむら 御白山 あはれおのむら 御山

長純

拾遺

日くくし あはれおのむら 子ん建と毛河ぬぬ あはれおのむら ね あはれおのむら ね あはれおのむら ね

御前

金葉

ちん建 あはれおのむら つか目ら あはれおのむら 山志 あはれおのむら り あはれおのむら り あはれおのむら り あはれおのむら り

平基範

暮

林 あはれおのむら の あはれおのむら 山 あはれおのむら の あはれおのむら 山 あはれおのむら の あはれおのむら 山 あはれおのむら の あはれおのむら 山

藤基俊

金葉

何 あはれおのむら の あはれおのむら 山 あはれおのむら の あはれおのむら 山 あはれおのむら の あはれおのむら 山 あはれおのむら の あはれおのむら 山

御信卿

同

み あはれおのむら の あはれおのむら 山 あはれおのむら の あはれおのむら 山 あはれおのむら の あはれおのむら 山 あはれおのむら の あはれおのむら 山

後頼朝







真

行平卿

うねらうとてなまこりあつて平月日ありて  
世のうらさう時先ありては

後撰

無名

秋のよきとて病をておけさう  
よれ多知とてさう

古今

同

うねらうとてなまこりあつて平月日ありて  
世のうらさう時先ありては

高光

亦六人撰

うねらうとてなまこりあつて平月日ありて  
世のうらさう時先ありては

後撰

無名

うねらうとてなまこりあつて平月日ありて  
世のうらさう時先ありては

同

後拾

うねらうとてなまこりあつて平月日ありて  
世のうらさう時先ありては

後撰

同

うねらうとてなまこりあつて平月日ありて  
世のうらさう時先ありては







帝 ミカド 上 ノボリ 下 ノド 大 オホ 臣 シノ 中 ナカ 男 オトコ 下 シタ 人 ヒト 盗 ヌスビ 人 ヒト 鬻 ウツ 者 モノ 人 ヒト 之 ノ 見 ミ 方 カタ 集 ツク 人 ヒト 形 カタ 和 ワ 琴 コト 今 イマ あり アリ ます マシ

東 ヒガシ 交 マシ 上 ノボリ 下 ノド 中 ナカ 之 ノ 將 シラシ 門 カド 女 メ 賤 シノ 男 オトコ 之 ノ 別 ワカ 書 カキ 酒 サケ 人 ヒト

女 メ 婦 メカ 老 オシ 婦 メカ 業 カゲ 人 ヒト

正月

正 マサ 月 ツキ 之 ノ 日 ヒ 也 ナリ

二月

二 フタ 月 ツキ 之 ノ 日 ヒ 也 ナリ

三月

三 サン 月 ツキ 之 ノ 日 ヒ 也 ナリ

四月

四 シ 月 ツキ 之 ノ 日 ヒ 也 ナリ

五月

五 イ 月 ツキ 之 ノ 日 ヒ 也 ナリ

和 ワ 琴 コト 今 イマ あり アリ ます マシ



八月

農の土を耕すは秋の初めなり

九月

田を耕すは秋の初めなり

十月

田を耕すは秋の初めなり

十一月

田を耕すは秋の初めなり

十二月

田を耕すは秋の初めなり

正月

田を耕すは秋の初めなり

二月

田を耕すは秋の初めなり

三月

田を耕すは秋の初めなり

四月

田を耕すは秋の初めなり

五月

田を耕すは秋の初めなり

六月

田を耕すは秋の初めなり

七月

田を耕すは秋の初めなり

八月

田を耕すは秋の初めなり

九月

田を耕すは秋の初めなり

十月

田を耕すは秋の初めなり

十一月

田を耕すは秋の初めなり

十二月

田を耕すは秋の初めなり

正月

田を耕すは秋の初めなり

二月

田を耕すは秋の初めなり

三月

田を耕すは秋の初めなり



五五古歌詞

あまのりとの 弥年也 あまのり

とく 勤也 とく

あまのり 繁也 あまのり

あまのり 雨晴也 あまのり 且用也又朝食 且用也又朝食

あまのり 夕所設也 あまのり 卒也 卒也

あまのり 新掃也 あまのり 穂向也 穂向也

あまのり 若也 若也 夜降也 夜降也

あまのり 月夜也 月夜也 夕凝也 夕凝也

あまのり 清也 清也 繁也 繁也

あまのり 甚振也 甚振也 随意也 随意也

あまのり 氷産也 氷産也 黙然也 黙然也

あまのり 氷鳴也 氷鳴也 勝也 勝也

あまのり 天又雨也 天又雨也 未振也 未振也

あまのり 木穉也 木穉也 神也 神也

あまのり 氷産也 氷産也 氷凍也 氷凍也

あまのり 未也 未也 小石也 小石也

あまのり 洞也 洞也 已上見方繁集 已上見方繁集

あまのり 洞也 洞也 約也 約也



あまのこゝろ  
おのれを  
まはして  
あまのこゝろ

あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ

あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ

あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ

あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ

あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ

あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ

あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ

あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ

あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ

あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ

あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ

あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ

あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ

あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ

あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ

あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ

あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ

あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ

あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ







あまの山

かき山の山

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山

大和  
あまの山

あまの山 春日みわり

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山

あまの山



あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた



あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた



井のひのき

もりのき

杜

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき

野

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき

ひのきのき



ほろちの

ひよれ

うさの

あさの

うれあ

あさの

さちあ

ひあ

原

あはのひ

あはのひ

あはのひ

あはのひ

海 せ た

あはのひ

あはのひ

あはのひ

あはのひ

あはのひ

あはのひ

あはのひ

あはのひ

あはのひ

あはのひ

あはのひ

あはのひ

あはのひ

あはのひ

あはのひ

あはのひ

あはのひ

あはのひ

あはのひ

あはのひ

あはのひ

あはのひ

あはのひ

あはのひ

あはのひ

あはのひ



心はなほおもひ

さほまのせと

心はなほおもひ

かみののよき

しほ

もさつら

ものゝおもひ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれのみ

津対海

あはれ

あはれ

あはれ

津

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ



つぎのり

みづのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

瀆

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり



あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

瀬村 辰奈太

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

鳩

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは



かきつゝ

の

備

み

ら

ら

か

ら

か

ら

の

の

ら

ら

ら

ら

の

の

の

の

かきつゝ

の

備

み

ら

ら

か

ら

か

ら

の

の

ら

ら

ら

ら

の

の

の

の



ひれはるかに

いそひ

あはれ

しんれ

しんれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

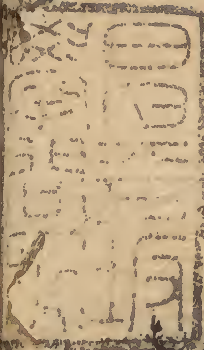
あはれ

あはれ









みまらさ

いひまら

雜ミ

みまら

みまら

とまら

とまら

とまら

の神ミ

みまら

みまら

みまら

みまら

みまら

みまら

みまら

みまら



一受用然後自用若上佛者則  
須凡所食飲與先施於沙門  
位自食正下食醫藥復作念初下  
境願漸一切還盡下第二時  
一切善法不集三時所修善法  
施眾生香共成能若不能口  
臨欲食時撮作一念亦得故  
應深

佛論云